私の
臨床レポート

KINOSHITA DENTAL OFFICE

木下 貴雄
先生

今回のアイテム

プレミス
アダプトセクショナルマトリックス
オプチボンドXTR

三次元的な咬合面、隣接面形態の付与に適したコンポジットレジン

コンポジットレジン充填の中で、最も大切な要素は「三次元的な形態」と「シェードマッチ」だと思います。

その中でも形態をいかに天然歯のような立体的な形態に仕上げることができるかが、コンポジットレジン治療の成功の鍵となります。

咬合面形態の付与において、様々なテクニックや充填器を駆使して溝や隆線を形作りますが、その際、プレミス・ナノハイブリッドコンポジットレジンが適しています。

様々なコンポジットレジンの中でもプレミスのペーストは、硬さとコシがあり、充填器離れもよく、操作性に優れ、細かな充填操作や形態の付与に向いています。

また、口腔内で直接形作るのに、最も苦労する隣接面形態ですが、アダプトセクショナルマトリックスがとても有効です。

従来のマトリックスであれば、どうしても平面的な形態となってしまい、自然な膨らみや、下部固形空隙を埋める事が困難でした。

このマトリックスを使用する事で、自然な豊隆のある立体的な形態を、簡単に付与することができます。

標準的な隣接面形態を形作る為のモデレートカーブ、下部鼓形空隙を閉じたい場合や歯間の距離が大きい場合に使用するインクリーズドカーブの2種類の曲線と、それぞれ2種類の高さがあります。

前歯部は勿論、臼歯部においても操作性に優れ、様々なウエッジやバイタインリングとの相性も良く、それぞれの歯牙に合わせた充填操作が行えます。

ポリエチレン製で、金属製のマトリックスのような癖がつきにくく、滑沢な表面を再現する事ができます。

また、昨年 11月に発売されたオプチボンドXTRについては、歯面へのぬれが良い為、塗布しやすくなっています。

エアーでの伸びも良い為、皮膜を薄くコントロールしやすく、また、光照射後の歯肉のヤケなども少ない為、審美的なコンポジットレジンにとても向いていると思います。

その上、接着強度も高いデータがあるので、信頼性のおけるボンディング材だと思います。

1-1. 術前　左上7の近心部、インレーと歯質の間に二次カリエスが認められる。

1-2. 術中　インレーを除去し、オプチボンドXTRを塗布

1-3. 術中　プレミスレジンを充填し、天然歯を模倣した立体的な形態を付与していく。

1-4. 術後　充填、研磨終了

2-1. 術前　右上5の隣接面カリエスの除去途中の状態

2-2. 術中　カリエス除去後エナメル質のみエッチングを行い、セクショナルマトリックスとラバーウエッジ、バイタインリングを設置した所

2-3. 術後　立体的且つ移行的な充填操作を行う事が出来た